

# 文化財ニュース いわき

第 81 号

令和 2 年 9 月 26 日

(公財)いわき市教育文化事業団

福島県いわき市常磐藤原町手這50-1  
(いわき市考古資料館内)

TEL 0246 (68) 6775

## 平城跡本丸の発掘調査

【現地説明会 令和2年9月26日(土)】

平城跡は磐城平藩の城郭で、慶長7年(1602)に入封した鳥居忠政が12年の歳月をかけて築城したといわれています。丘陵の最高所を本丸とし、南は断崖、北は沢を利用した水濠で防御されています。本丸を囲う形で大手郭・内記郭・塩硝郭が、その外側には大手外郭・水手郭・杉平郭・二の丸・三の丸などの郭が配置されていました。城の大手は西方で、六間門・追手門などの門が配され、天守は三階櫓を代用していました。

鳥居氏の後は、内藤氏・井上氏・安藤氏と4代約270年にわたり、譜代大名の居城として明治維新を迎えました。

今回の調査によって、本丸跡には戊辰戦争(1868)の戦火で焼失した本丸御殿跡の遺構が残されていることが確認されました。また、さらに古い文化面が複数確認され、本丸には数時期の遺構があることがわかりました。



上空より見た本丸跡(赤線部が調査区)



礎石建物の検出状況



便所跡の検出状況



焼けて赤色になった<sup>すさ</sup>のに入った粘土の塊

#### ◆遺構について

今回の調査では、本丸御殿跡を構成する遺構の一部が確認されました。

本丸とは、城の中核区画のことで、城主の住む本丸御殿や天守が置かれます。本丸御殿は、城主が政務を執ったり日常生活を営む屋敷で、城の中核をなす建物です。

確認された建物跡は、石の上に柱を建てる礎石建物です。柱が建っていた礎石や礎石の痕跡、柱穴、建物の基礎と推測される石列、排水と考えられる石組の遺構、便所跡、溝跡などが見つかりました。

これらの建物跡は、出土した遺物の年代から幕末まで機能していたと考えられ、磐城平藩の最後の藩主<sup>あん</sup>安藤信<sup>どうのふたけ</sup>の時代まで使われていた本丸御殿跡と考えられます。

文献記録によると、戊辰戦争で磐城平城は火災に遭っているとされています。発掘された本丸御殿跡は、焼土の塊と炭化物を多量に含んだ土に覆われていました。この土の中からは火災で焼けたと考えられる陶磁器や瓦、壁土と見られる<sup>すさ</sup>のに入った粘土の塊、炭化した木材などが混入していました。一方、礎石には焼けた痕跡がないなど、発掘調査成果から推定される火災は、磐城平城の建物すべてが激しく焼け落ちたようなものではなく、部分的であった可能性があります。

とじておきましよう。

## ◆遺物について

発掘調査では、瓦・かわらけ・陶磁器・木製品・金属製品などさまざまな遺物が出土しました。

瓦は種類も多く軒丸瓦、軒平瓦、棧瓦、平瓦、丸瓦などがあります。しかし、建物の屋根瓦としては出土量が少ないので、すべての建物の屋根が瓦葺きではなかったと推測されます。

陶磁器では、九州の肥前産の染付磁器が圧倒的に多く、少量の中国・清朝の磁器皿などが混在しています。磁器は、大皿、碗、皿、徳利、段重、水滴、蓋など日常生活で使う器種で占められています。陶器には、碗、皿、鉢、鍋、壺類、灯明などがあり、瀬戸・美濃のほか大堀相馬産が含まれます。これらの年代は、幕末を下限とする19世紀代が主体です。とくに磁器は豊富な器種だけでなく大型で立派な製品が目立ち、城主の屋敷にふさわしい品物といえます。

溝跡の中からは、炭化した木材や壁土、釘なども出土しています。木材と釘が出土していることから建築部材の一部だったことがわかります。

また、幕末の面では、土中に突き刺さった砲弾が見つかりました。長さ約17.5cm、直径約8.5cmの大きな砲弾で、戊辰戦争で政府軍に打ち込まれた四斤山砲よんきんさんぽうと考えられます。



幕末の面から出土した軒丸瓦



肥前産の大皿



地面に突き刺さるような状態で見つかった砲弾



幕末以前の掘立柱建物の柱穴（中央の落ち込み）



焼けて硬化した土層

### ◆幕末以前について

絵図などの文献記録によると、磐城平城の本丸は築城当初から現在の場所にありました。

調査では、数カ所で深掘りを行い、幕末以前の文化面を確認しました。土層の堆積状況から、建物の建て替えや建て増しの度に、盛土と整地を何度も繰り返して行っていたことがわかりました。幕末より古い時代の建物は礎石建物ではなく、地面に穴を掘って柱を建てる掘立柱建物であった可能性も出てきました。

また、現在の地表面より約1m深く掘り下げたところでは、焼けた土の面が調査区一面に広がっていました。通常の火災で焼けた地面とは考えにくく、長時間高温で火を受けた時に生じる痕跡と考えられます。

この下層からは上幅約2.8m、深さ1.2mの堀跡と考えられる深い溝跡も確認されています。

とじておきましょう。

### 磐城平城ミニ二年表

年 代	できごと
慶長7年（1602）	鳥居忠政がいわきに入り磐城平城をつくる
慶長8年（1603）	江戸幕府ができる
元和元年（1622）	鳥居氏が山形へ移り内藤氏がいわきへ入る
延享4年（1747）	内藤氏が延岡に移り井上氏がいわきに入る
宝暦6年（1756）	磐城平藩に安藤氏が移ってくる
嘉永6年（1853）	ペリー来航、日米和親条約締結
安政7年（1860）	桜田門外の変、大老井伊直弼死去
文久2年（1862）	坂下門外の変で安藤信正が受傷する
慶応4年（1868） 1月3日	戊辰戦争始まる
慶応4年（1868） 5月3日	磐城平藩が奥羽越列藩同盟に加わる
慶応4年（1868） 7月13日	戊辰戦争、磐城平城落城